

# 令和6年第12回沖縄県教育委員会（定例会）議事録

## 1 開会及び閉会に関する事項

令和6年9月19日 午後3時開会

午後3時40分閉会

## 2 出席者及び欠席委員の氏名

### (1) 出席者

教育庁 半嶺 満                      委 員 小濱 守安                      委 員 比嘉 佳代  
委 員 大城 進                      委 員 宮城 光秀                      委 員 辻上 弘子

### (2) 欠席委員

なし

## 3 説明のため会議に出席した職員の職氏名

教 育 管 理 統 括 監 田代 寛幸      教 育 指 導 統 括 監 崎間 恒哉  
参 事 諸見 友重      参 事 宮城 肇  
総 務 課 長 平田 直樹      義 務 教 育 課 長 新城 高広  
義務教育課学力向上推進室指導主事 比嘉 紀史      保 健 体 育 課 長 金城 正樹  
保健体育課健康体育班指導主事 諸見謝 尚      文 化 財 課 長 瑞慶覧 勝利  
文 化 財 課 管 理 班 長 當間 淳子      文 化 財 課 文 化 財 班 長 神里 武弥

## 4 議事関係

### (1) 開会

半嶺教育長が開会を宣告した。

### (2) 議事日程の決定

議事日程は会議資料記載の日程案のとおりとすることが決定された。

### (3) 令和6年第11回議事録の承認

全会一致で、令和6年第11回議事録を承認した。

### (4) 議事録署名人の指名

半嶺教育長が宮城委員を議事録署名人に指名した。

(5) 報告事項

報告事項1 市町村立中学校及び県立中学校で使用する教科用図書の採択状況等について

【説明（義務教育課長）】

市町村立中学校及び県立中学校で使用する教科用図書の採択状況等について資料に基づき、報告を行った。

【質疑等】

○大城委員：令和7年度から4年間、市町村立中学校及び県立中学校で使用する教科用図書すなわち教科書の採択は、県教委が設定した採択地区ごと及び県立中学校それぞれの選定行為を通じて公正かつ適切に決定されたと思いますが、そのような理解で良いですか。

○義務教育課長：はい。

○大城委員：次に、教科書採択に係る業務に当たられた関係者の御努力に心から感謝と敬意を表します。ところで、教科書採択との関連で、本県の学習者用デジタル教科書の整備状況と活用の推進についてお聞きします。背景として、本県教育情報化推進計画の39から40ページに、デジタル教科書の小中学校の整備状況について、「令和8年度までに100パーセントとする。また、その活用については国の動向を注視し、その効果的活用の充実を支援する。」とありますが、整備状況と活用の推進について現状や展望等を御説明いただきたい。

○義務教育課長：デジタル教科書の使用状況について、令和6年度は、英語に関して小学校と中学校で全ての児童生徒を対象とし、算数、数学に関して5割の小中学校を対象として配布しており、その他のデジタル教科書に関しては有償です。また、本県においては、小学校4校、中学校3校がリーディングDXスクール事業の研究指定校とされており、デジタル教科書をはじめ、その他ソフトウェアとクラウド環境を活用し、先進的な取組を展開しております。県教育委員会としましては、学校における教育の質をより高めていくために、デジタル教科書及びデジタル教材の効果的な活用の推進に取り組んで参ります。

○大城委員：わかりました。承知の通り、文部科学省は令和6年4月、教育DXに係る当面のKPI、中間目標を示し、そこでデジタル教科書を実践的に活用している学校の割合を令和8年度までに80パーセントと設定しています。このような国のデジタル教科書の活用の推進に関する方向性を捉え、本県のデジタル教科書、教材、ソフトウェアの活用を一層推進していただきたいと思います。期待しています。

報告事項2 令和6年度全国高等学校総合体育大会（ありがとうを強さに変えて 北部九州総体2024）スローガン「駆け上がれ夢の舞台へ 燃え上がれ若人の魂」結果報告

【説明（保健体育課長）】

令和6年度全国高等学校総合体育大会（ありがとうを強さに変えて 北部九州総体 2024）スローガン「駆け上がれ夢の舞台へ 燃え上がれ若人の魂」の結果について資料に基づき、報告を行った。

**【質疑等】**

○大城委員：今回、高校総体団体の部で惜しくも1位入賞は逃しましたが、昨年度比で上位入賞者が2団体増えています。また、個人の部では、昨年度比で1位入賞3人、合計で5人がそれぞれ減ったものの、競泳や飛び込み等の久々の入賞もあり、よく頑張りました。他方、今回総体参加者が42校420人で、昨年度56校414人に比べ学校数が14校減少しているのが気になります。その点を含め、現下、本県高校体育系部活動の活動状況等をお聞かせいただければ幸いです。

○保健体育課長：高体連へ学校数が減った主な原因を確認したところ、昨年度はバドミントンと卓球の団体優勝校と、バドミントンのシングルス、ダブルス、卓球の個人シングルスとダブルスの優勝校が分散していましたが、今年度はそれぞれ1校で団体個人を制覇したためと聞いています。また、陸上と水泳においては、県で優勝しても基準タイムを突破出来ずに全国派遣できないことがあります。学校数は減っていますが、参加生徒数は少し増えていますので、県全体としては、順調だと分析しております。

○大城委員：分かりました。入賞者のみなさんには、部活動や本大会で培ったチームワークや忍耐力、身に付けた技能、スキルを各自の学校生活や新たな挑戦の場に繋げていくことを願っています。また、指導者のみなさんには、各選手への技術指導はもとより部活動改革への御協力に心より感謝の意を表します。

**報告事項3 第48回全国高等学校総合文化祭岐阜大会等の結果報告**

**【説明（文化財課長）】**

第48回全国高等学校総合文化祭岐阜大会等の結果について資料に基づき、報告を行った。

**【質疑等】**

○小濱委員：ドラゴンフルーツに関する中部農林の報告について、テレビ報道で見て素晴らしいと思っておりました。先週、校長研修会でこの発表を聞いたのですが、OISTも絡んだ、地域に根差し、地域と連携したプロジェクトであり、沖縄県の農業の新たな道が開いていくような研究だと思います。地域と高校の連携を今後もっと伸ばしていくと沖縄県の農業の未来も明るいのではないかと思います。この報告は素晴らしく、とても感激しました。

○文化財課長：農家の所得向上に関して、今まで廃棄されていた分を活用して流通に乗せるという生徒自身が考えた目的を、いろいろなかたちで課題を解決し、また、解決できていない分野についても今後取り組みたいという意欲に満ちており、委員もおっしゃった通り、素晴らしい発表だと思っています。

○大城委員：全国高総文祭 2024 岐阜大会において、惜しくも最優秀賞は逃しましたが、昨年度比で参加部門の上位入賞合計が3部門増えています。実際、本大会においては、15

部門に 252 名の県代表の生徒が参加し、伝統芸能はじめ 5 部門 6 つの優秀賞等を受賞したことから、よく頑張ったと思います。そして、現在の文化系活動の状況については、全国高総文祭以外の諸大会での活躍、九州学校農業クラブ連盟大会での最優秀賞や、写真甲子園 2024 の準優勝という結果からも活発な様子が伺えます。具体的にドラゴンフルーツ農家の所得向上に向けた活動、北海道で開催の全国的写真大会に過去 10 年を優に超えて参加し続ける会心の作品追及という取組には驚き、感銘を隠せません。所管課には、この 2 事例の問題解決型学習、探究活動も含めて、現下、本県高校の文化系活動の状況に関するご感想等をいただければ幸いです。

○文化財課長：今年度は 15 部門で 252 名が参加し、昨年度は 16 部門で 280 名が参加しました。減少の原因として、県高文連の専門部が幅広く、例えば、茶華道について、前回の鹿児島大会では部門開催がありましたが、岐阜大会では部門開催がなかったため、生徒は活躍していても高総文祭に参加できない状況があります。同時期に西原高校マーチングバンド部が台湾の総統府音楽会へ参加していることもあります。部門や参加生徒数が減少してはいますが、機会があれば参加したいと考えている生徒も多く、西原高校マーチングバンド部のように世界でグランプリを獲ったり、音楽会へ招待されたりするなど、全般的に高校生の文化活動は活発で、先生方も専門部も頑張っているというのが所感です。

○大城委員：分かりました。今後も文化系部活動の更なる充実発展に向けて、より一層の取組支援をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

#### 報告事項 4 無形文化財保持者の追加認定についての報告

##### 【説明（文化財課長）】

無形文化財保持者の追加認定について資料に基づき、報告を行った。

##### 【質疑等】

○大城委員：伝統音楽 3 分野での保持者 58 人の追加認定について、本人はもとより、各分野関係者にとって実に嬉しい知らせであると思います。承知の通り 3 分野の芸術性、芸術的な価値は日本の芸能の中でも重要視されていて、今回の各認定保持者につきましては、県指定無形文化財に指定される芸能の技法を高度に体現し保存継承するものとのことより、深く敬意を表する次第です。そこで、郷土文化・芸能コースを擁する高等学校関係者としては、今回の伝統音楽 3 分野と、その保持者認定制度の周知を通して関連コース等に学ぶ生徒の技能の向上・精進に繋げること、並びに 17～19 世紀の琉球王朝時代に培われたとされる三線音楽や御冠船芸能等、独自の伝統文化を本県高校生に触れさせることは大事だと思っています。所管課には沖縄文化の継承、発展、普及の取組の一環で今後もより一層の学校への周知広報等の工夫をお願いしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

○文化財課長：県で策定した新沖縄 21 世紀ビジョンにて、「沖縄文化の保存継承と発展のために伝統芸能を県民に向けて披露する機会の創出や、広く国内外に向けた鑑賞機会の提供と情報発信を通して、伝統芸能の継承と発展に取り組んでいく。」とあります。その中で文化財課と知事部局の文化振興課、県立博物館・美術館、国立劇場おきなわ等が関係分野

において、効率的に連携することが重要と考えております。保存会における伝承者養成事業を通して、無形文化財保持者の後継者を育成することが、重要な責務と考えており、保存会と連携した事業を行っております。文化財課では、県内の児童生徒に対して組踊・沖縄芝居の鑑賞会やワークショップ等を行っており、文化振興課では、かりゆし芸能公演や高校生選抜かりゆし芸能公演の事業を行っています。また、国立劇場おきなわでは、組踊鑑賞教室にて、舞踊、地謡、三線、太鼓等を鑑賞する機会を設けたり、子の会という組踊の普及に尽力している若手グループや、女流組踊研究会めばなの方々と文化振興課等も含めて連携しながら、ワークショップ等を小中学校で開催し、各校に伝えているところです。

○大城委員：わかりました。日本本土とは異なる歴史をもち、独自の文化や言語をもつ沖縄、沖縄県民をしてどのような苦勞に遭おうとも、栄えある文化とアイデンティティを維持するために懸命に努力を傾ける人々であります。ぜひ、よろしく願いいたします。

(6) その他  
特になし

(7) 閉会  
半嶺教育長が閉会を宣言した。